

がいらいしゅ
外来種 ってなに？

～奄美の美しい自然を残そう～

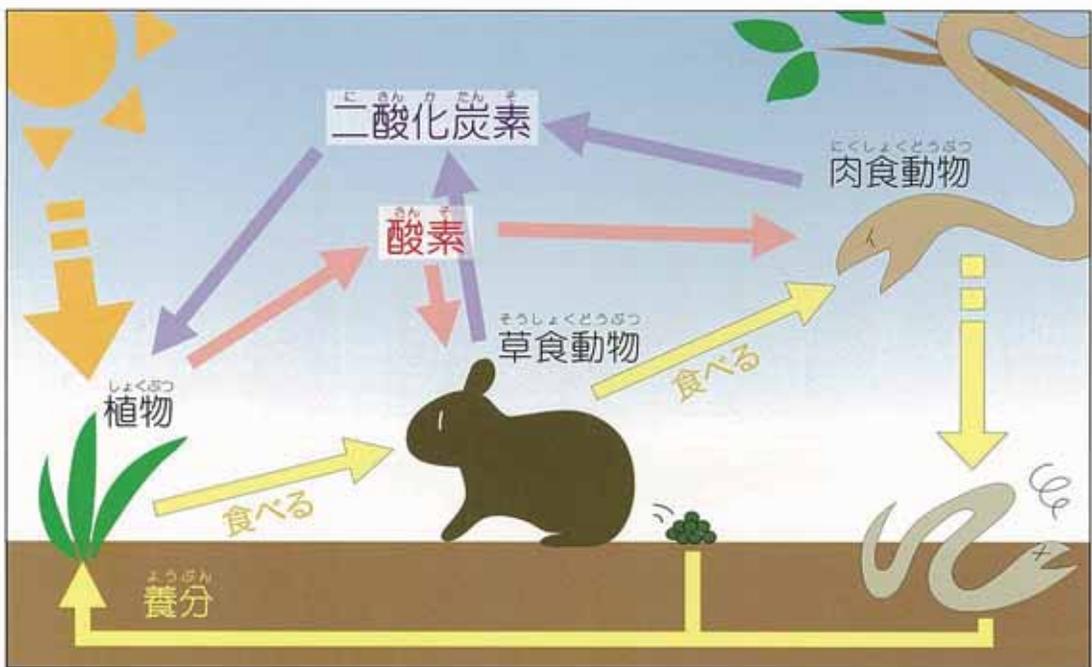


がいらいしゅ
「外来種」って聞いたことあるかな？
あまみ すばらしい しぜん のこ
奄美の素晴らしい自然を残すために何ができるかな？
みんなでいっしょに考えてみよう！

しぜん 自然のしくみ

すべての生き物は、自然のなかでおたがいに複雑に影響しあいながら、生きています。このしくみを「生態系」といいます。

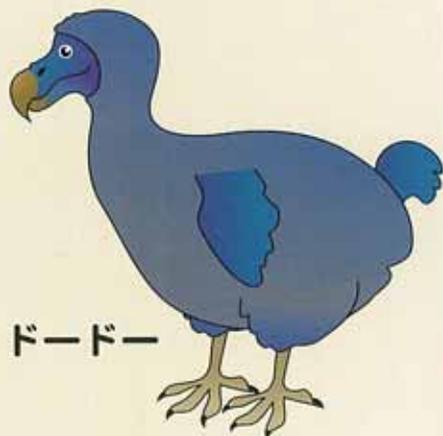
生態系は、とても複雑な関係のうえに成り立っているので、そのなかの生き物が1種類欠けるだけでも、バランスが崩れて、他の生き物にまで影響が及ぶことがあります。



生き物同士の関係というのは、とても複雑でわかりにくいものなんだよ。たとえば、こんな話があるんだ。

「不思議の国のアリス」というお話に、ドードーという鳥が出てくるのを知ってるかな？ これはインド洋のモーリシャス島に17世紀の終わりまで実在した鳥なんだ。

敵のいない平和な島で暮らすドードーは、飛ぶ必要が無かったから、翼が小さくなってしまっていたんだ。だから17世紀初めに人間がやってきたとき、飛べないドードーは、人や人が連れてきたイヌ、ネコ、ブタに、卵から親鳥までどんどん食べられてしまった。そして、たくさんいたはずのドードーは発見から100年もしないうちに完全に絶滅してしまったんだよ。



ドードー

興味深いのはこの後の話なんだ。ドードーの絶滅から300年たった今、今度はモーリシャス島にしかないカルバリア・メジャーという木が絶滅しそうになっているんだ。今あるいちばん若い木でも、樹齢300年を超えているらしい。ということは、ドードーが絶滅してから、この木は新しく発芽していなかったということだね。調べてみると、この木の固い実は、ドードーに食べられて、そのフンと一緒に種を出してもらうことで、初めて発芽できることがわかったんだ。つまり、ドードーなしでは生きられない木だったんだ。

このように、一つの生き物が絶滅することで、思いもかけなかったような影響が後から出てくることがあるんだよ。例えば、石垣の石を下のほうから一つずつ抜いていくと、どうなるかな？ 最後には石垣全体が崩れてしまうよね。生態系も同じなんだよ。大切なのは、どれか1個の石を守ることじゃない。全体を守ることなんだ。



奄美の生態系とそこに暮らす生き物たち



雨の多い奄美では、多くの動植物の生活が水によって支えられています。森に降ったたくさんの雨から、緑豊かな植物が育ち、そこに多くの生き物が集まります。ヒカゲヘゴやアマミアラカシが生える奄美の森には、アマミノクロウサギをはじめ、オオトラツグミ、ハブなど、奄美を代表する生き物が数多く生息しています。秋に実るドングリ（アラカシやシイの実）は、ルリカケスにとって大切な食料です。岩や大きな木にくっつき、空気中の水分を取り込みなが

ら育つシマオオタニワタリは、アマミノクロウサギの^{だいこうぶつ}大好物です。

木々の根の間や土に^{きゅうしゅう}吸収された雨水は、少しずつしみ出して川をつくります。森の中の^{みずべ}水辺には、イシカワガエルやテナガエビの仲間、モクズガニなど、^{さまざま}様々な生き物が生活しています。そして、これらの動物を食べるヘビや鳥もやってきます。



考えてみよう――

森の木が少なくなったら、^ふ降った雨はどうなるのかな？

森に^く暮らす生き物はどうなるのかな？

森から流れ出た川は、森の土から^と溶け込んだ^{ようぶん}養分とともに、海に向かって流れていきます。河口付近の汽水域（^{かこう ふきん}淡水と^{きすい}海水が^{たんすい}混ざる^{かいすい}場所）では、森から運ばれてきた^{ようぶん}養分のおかげで、オヒルギやメヒ



ルギといったマングローブ林^{りん}が育ちます。マングローブ林^{りん}の泥^{どろ}の上や、そこから広がる干潟^{ひがた}には、オキナワハクセンシオマネキやミナミコメツキガニなどのカニ類、泥^{どろ}の上をジャンプして進むミナミトビハゼ、泥^{どろ}の塚^{つが}をつくって生活するオキナワアナジャコなど、砂地^{すなじ}の干潟^{ひがた}ならではの生き物が多く見られます。また、それらを食べるために、シギやサギの仲間、カワセミもよく訪^{おとず}れます。



考えてみよう

川の水といっしょに、どんなものが、森から流れてきてマングローブ^{ようぶん}の養分になるのかな？

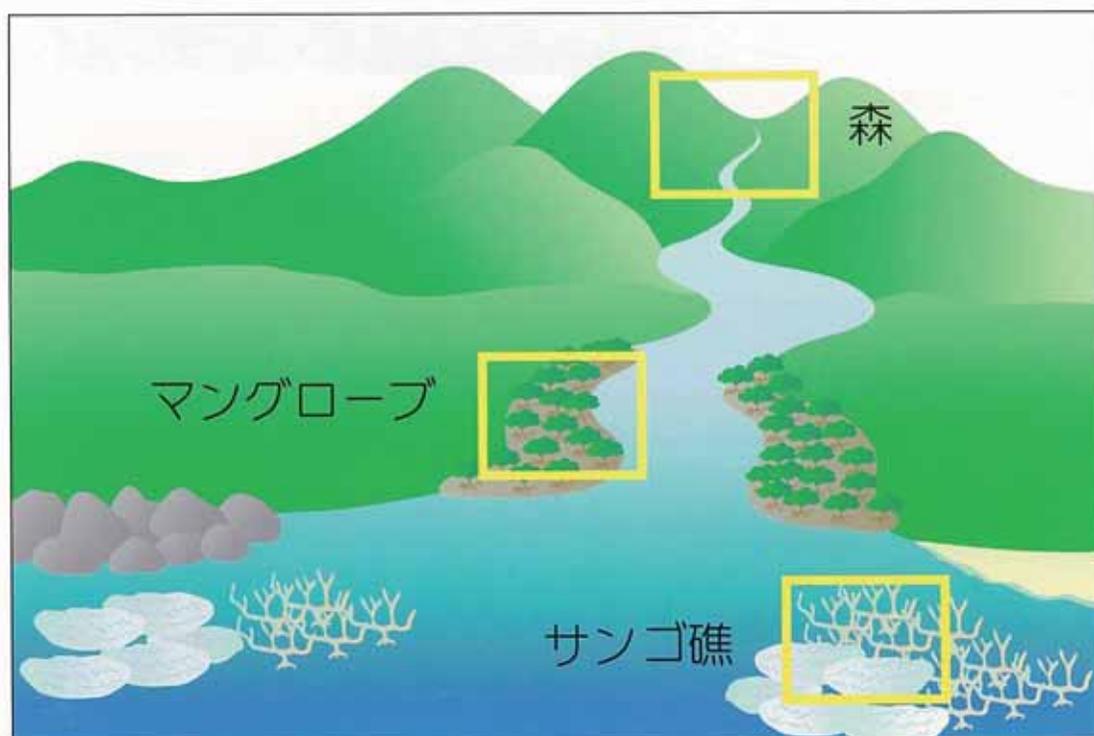
奄美^{あたま}の暖かい海には、多くのサンゴが育ちます。サンゴ礁^{しょう}では、カラフルな熱帯魚^{ねったいぎょ}をはじめ、カニ、ヒトデ、ウミウシなど、とても



多くの生き物が生活しています。森からの^{ようぶん}養分が流れ込み、さらに外からの大きな波をさえぎってくれる^{あたた}暖かいサンゴ礁^{しょう}は、生き物たちにとって、とても生活しやすい場所なのです。また、サンゴ礁^{しょう}は^{かく}隠れ場所もたくさんあるため、小さい頃はサンゴ礁^{しょう}で生活して、大きくなると沖の方に出ていく魚の仲間も多くいます。

考えてみよう

森の木がなくなったら、マングローブもサンゴ礁^{しょう}もなくなってしまふかもしれないだよ。どうしてかな？
下の絵を見ながら、森とマングローブとサンゴ礁^{しょう}とのつながりについて考えてみよう。



奄美の生態系せいたいけいがあぶない！

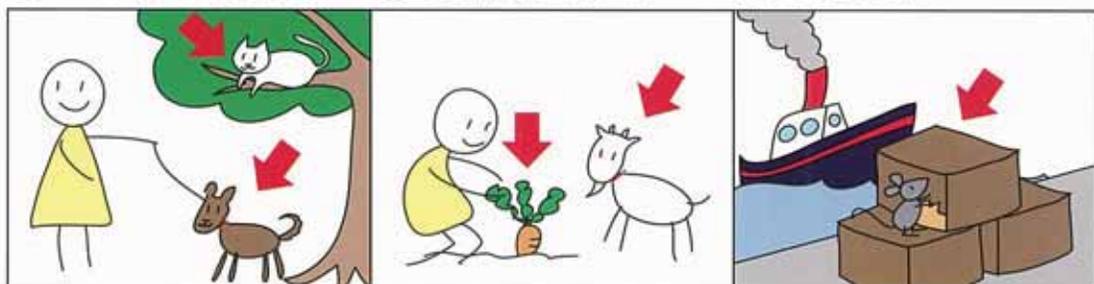
いろいろな動物や植物がみられる奄美ですが、最近、それらがどんどんへって、生態系せいたいけいがこわれてきています。何が原因か、下の3つの絵を見ながら、みんなで考えてみましょう。



外来種ってなに？

その地域にもともといなかったのに、人によって持ち込まれた動物や植物を、「外来種」とよびます。そのなかには、①人がペットとして連れてきた動物や観賞用の植物、②食料として持ってきた動物や植物（畑の農作物など）、③たまたま船の積み荷などにまぎれて持ち込まれた動植物、などがあります。

① ペットの目的で ② 食料の目的で ③ たまたま



外来種であっても、限られた場所できちんと管理していれば問題はありません。しかし、放し飼いにしたり、飼えなくなった（栽培できなくなった）ものを野外に放してしまったりすると、野外で増えて、生態系に影響を与えてしまうことになるのです。

私たちが住んでいる奄美群島では、本土とつながりのない島の中で、とても長い時間をかけて進化してきたので、この島にしかいない動物や植物がたくさんあります。敵や競争相手の少ない奄美の島でゆったりと平和に暮らしてきた生き物たちは、島の外から突然やってきた外来種にたいして、自分の身を守る方法を知りません。奄美にしかいない動植物が絶滅してしまうということは、地球上からその生物が永遠に消えてしまうということです。

みぢか がいらいしゅ
身近な外来種

これらは奄美で見られる外来種です。知っている生き物はありませんか？ 見られる場所や、どんな問題があるか、考えてみましょう。



これらは、すべて実際に奄美の野外で発見され、撮影された動植物です。（写真提供：前園泰徳）

① ジャワマングース

もともとは、^{とうなん}東南アジアから^{ほんい}西アジアまでの広い範囲にすむ動物ですが、ハブを^{たいじ}退治する目的で、奄美に持ち込まれました。

ところが、ハブは夜に動くのに対してマングースは昼間に動くこと、そして、マングースにとって、^{きけん}危険なハブを相手にするより、アマミノクロウサギやアマミヤマシギなど、^{おそ}逃げ足の遅い動物を^{つかま}捕まえる方がずっと^{かんたん}簡単なことから、マングースは、^{やがい}野外ではハブではなく、アマミノクロウサギ、アマミヤマシギ、ケナガネズミ、アマミトゲネズミ、イシカワガエルなど、^{きしょう}奄美の希少な生き物をどんどん食べてしまっています。他に^{のつさくもつ}農作物を食べる害^{がい}もあります。

1979年頃、^{なげし}名瀬市の^{あかさきこうえん}赤崎公園に^{とうはな}30頭放されたマングースですが、^{げんざい}現在は、奄美大島全体に数千頭いると考えられています。毎年、1000頭以上のマングースが^{つか}捕まえられ、^{くじょ}駆除されていますが、それでも、マングースの数を^へ減らすのは、とても^{むずか}難しいことです。

^{おきなわとう}沖縄島にも、ハブとクマネズミの^{たいじ}退治の目的で、奄美より70年近く前、1910年に持ち込まれましたが、同じように、ヤンバルクイナなどの^{きしょう}希少な生き物がたくさん食べられてしまい、現在、とても大きな問題となっています。

②③ ノイヌ、ノネコ

^{やせいカ}野生化してしまったイヌやネコを、ノイヌやノネコと呼びます。イヌもネコも、もとはペットとして奄美に持ち込まれました。しかし、^カ飼えなくなったイヌやネコを山に捨てる人も多く、今では山の^{おくふか}奥深くでも見られます。ノイヌとノネコも、マングースと同じように、アマミノクロウサギやアマミヤマシギなど、^{きしょう}奄美の希少な生き

物を食べてしまうため、とても大きな問題となっています。

もともと奄美大島には、肉食の哺乳類がいなかったので、奄美の生き物は、突然やってきたマングースやノイヌ、ノネコに対して、自分の身を守る方法を知らないのです。

④ ヤギ

食用の目的で、奄美に持ち込まれました。しかし放し飼いにされることも多く、色々な植物を食べてしまうので、植物への被害が心配されています。小笠原諸島では、野生化したヤギがどんどん増えて、島の希少な植物を根こそぎ食べてしまう問題が起きたために、駆除が始まり、なかには完全な駆除が成功した島もあります。

⑤ クマネズミ

もとは東南アジアのネズミですが、今は世界中で見られ、奄美にも、かなり昔に船の荷物といっしょに入ってきたようです。家に住み着くので、「イエネズミ」と呼ばれることもありますが、あたたかい奄美では、山の中でもよく見られます。米などの農作物が食べられてしまうほか、木登りが得意なため、アカヒゲなどの鳥の巣がおそわれ、卵やヒナが食べられている可能性があります。

⑥ コイ(ニシキゴイなど)

もともと日本にいた野生の黒いコイは本土の数カ所に残っているだけで、奄美にいるコイは全て外来種です。ニシキゴイは、人間が品種改良によって作ったものです。コイは、水草、昆虫、エビ、小魚など、あらゆるものを食べてしまうほか、水底の泥を巻き上げて

水を濁らせるので、他の生き物が住めなくなってしまう。コイは世界的にも「世界の最悪の外来種100選」に選ばれています。

⑦ モクマオウ

黒っぽい細い葉をもつ、ひょろっとした松のような木で、奄美では、防風林として海岸沿いによく植えられています。しかし、モクマオウは、ほかの植物が育たなくなる物質を出すので、もともと海辺に生えているアダンなどが枯れてしまいます。また、どんどん海に向かって数を増やしていくので、砂浜が小さくなってしまい、砂浜で産卵するような鳥（コアジサシなど）に影響が出ています。

⑧ アフリカマイマイ

もとは東アフリカにすむ大きなカタツムリです。食用として奄美に持ち込まれましたが、寄生虫がいることがわかり、今は食べられることもなく野外で増えており、タンカンなどの農作物に被害が出ています。最近では、サザエの殻より、軽くて大きなアフリカマイマイの殻を好むムラサキオカヤドカリが増えてしまっています。

⑨ ボタンウキクサ(ウォーターレタス)

もともとは、世界の熱帯～亜熱帯地域に分布しますが、観賞用に日本に持ち込まれました。水面をおおってしまうので、水の中に光が届かなくなって、ほかの水草が死んでしまったり、水を汚したりして、魚にまで害がおよぶことがあります。ものすごい速さで増えるため、家で増えすぎてしまったものを池や川に捨ててしまうと、あとで取りのぞくのがとても難しくなります。

⑩ ヤナギバルイラソウ

メキシコ原産の植物で、むらさき色のきれいな花を咲かせます。観賞用に持ち込まれましたが、増える力が強いので、今では、川のなかす中州など、いろいろなところで見られるようになりました。生態系への影響は調べられていませんが、目に見えないところで影響を与えていたり、しばらくしてから影響が出てくる可能性があります。

⑪ バリケン

もともと中央アメリカ、南アメリカに分布するノバリケンという鳥から、人間が食べるために品種改良したカモの仲間、川でよく見られます。飛べないと言われることもあります。奄美でも、じっさいに空を飛んでいくのが確認されています。生態系に与える影響は、調べられていませんが、野外で増えているので、この先、影響が出てくる可能性がじゅうぶんにあります。

⑫ ミシシippアカミミガメ(ミドリガメ)

アメリカ原産で、ペットとして日本に持ち込まれました。「ミドリガメ」として、子ガメがたくさん売られていますが、大きくなって飼いきれなくなったものを野外に捨てる人も多く、今では日本中の川や湖、池で見られます。いろいろなものを食べるので、エサとなってしまう小魚やエビなどが減ってしまう可能性があります。本土では、もともといたクサガメやイシガメなどのエサや住み場所を奪ってしまうことが心配されています。世界的にも、ミシシippアカミミガメは、「世界の最悪の外来種100選」に選ばれています。

奄美せいたいけいの生態系を守っていこう！

奄美せいたいけいの生態系を守るには、どうしたらいいのかな？
みんなにできることは、何かな？

外来種がいらいしゅだからって駆除くじょするのは、かわいそう？

悪いのは、外来種がいらいしゅではなく、それらを島に持ち込んで野外やがいに放はなしてしまっただけ私達人間だということを、絶対ぜったいに忘れてはいけません。外来種がいらいしゅは、住み慣れない土地なでも頑張がんばって生きていこうとしているだけです。でも、かわいそうだからといって、マングースなどをそのままにしておいたら、人間よりもずっと昔から奄美で生きてきたアマミノクロウサギなどの生き物は、どうなってしまうのでしょうか？

世界でここにしかない奄美せいたいけいの貴重な生態系きちようを守るためには、かわいそうではあっても、外来種がいらいしゅは駆除くじょされなければいけません。そして、今後、このように不幸ふこうな外来種がいらいしゅをつくらないためには、みなさんが、ペットなどの管理かんりをきちんとしていくことが大切です。

「外来種」ってなんだかわかったかな？
僕たちがいつまでも安心して住める島に、
みんながしてくれるといいな。





発行：奄美自然体験活動推進協議会

文・絵：前園 美樹 2005年3月発行

※ この冊子は、2004年度末の環境省アクティブ・レンジャー活動の一環として作成されたものです。

問い合わせ先：奄美野生生物保護センター

〒894-3104

鹿児島県大島郡大和村恩勝字腰ノ畑551

TEL: 0997-55-8620 FAX: 0997-55-8621

名前

年 組